

緩和ケア病棟雑感



緩和ケアセンター医長
白木 照夫

緩和ケア病棟は約2年間コロナ専用病棟に転用されていましたが、コロナの扱いがいわゆる5類に転じた昨年5月より緩和ケア対象の患者さんの受け入れを再開しております。病棟のご利用を考慮しておられた患者さんには、多大なご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。

病棟では新しい看護スタッフを迎え、心機一転患者さんのケアに頑張ってくれています。再開後約1年経過しましたので、コロナ蔓延前後での緩和ケア病棟に関連する気づきについて述べてみたいと思います。

コロナの流行が始まって

病棟閉鎖前から、病棟利用を希望する患者さんが少し減ってきていました。ご家族との面会が自由であった緩和ケア病棟も、コロナの蔓延で一気に制限がかかりました。「入院して面会ができないのなら、面会自由な在宅の方がよい」と感じておられた患者さんやご家族の背中を押したようです。

終末期の患者さんやご家族にとって、面会がいかに大事なイベントであったかが実感されました。



病棟の空白期間とその後の現状

緩和ケア病棟の閉鎖後、専門的な緩和ケアが必要な患者さんは近隣の緩和ケア専門病棟や訪問診療機関に診療をお願いしました。患者さんのご診療をお引き受けいただきました医療機関の先生方には、感謝申し上げます。

緩和ケア病棟を再開してみますと、病棟の利用前にすでに訪問診療の先生方の診療が開始されている例が増えています。

在宅療養の希望は、コロナ禍の中で高まったものの、当院は残念ながら在宅訪問診療の部門がないため、そのご要望には院外の先生方が応じてくださっていることがわかりました。

再度、感謝申し上げます。



コロナウイルス流行前の緩和ケアセンター夏祭りの様子

ボランティア活動の休止

コロナ禍により、病院の中からボランティアさんたちが姿を消しました。

緩和ケア病棟でもコーヒーやお茶のサービス、コーラスや楽器の演奏会、アニマルセラピー、夏祭りやクリスマス会など様々な行事において、多くのご援助をいただいてきました。その活動は患者さんやご家族だけでなく、病棟職員の気持ちも癒してくださっていましたが、いまだ再開の目途が立っていません。



病棟は再開し必要な医療、ケアは行っておりますが、環境整備の面でコロナ前の状況には戻っておらず、病院内でのコロナとの共存は、まだまだ先のことのように感じられます。

以上緩和ケア病棟に関連した状況について、コロナの前後での変化を中心に述べてみました。